

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームアイケア手稲(1F)	評価実施年月日	H19年 8月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	柏木 はぎ乃	記録年月日	H19年 8月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念に基づいて取り組んでいます。	今後は掘り下げて、地域密着型サービスを織り込んだ理念を加えると、より様々な活動を通し地域に溶け込めるような意識づけ・向上に繋がると思います。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関・ホール・事務所・休憩室に掲示し、職員全員が理念を意識し介護に努めています。理念は浸透していると思われるが、今後も年間目標・月間目標を設定し職員間の共有を図ることにより、具体的なケアについての意見の統一と継続に努める。	利用者の皆様やご面会に来られる皆様の目に触れる所に掲示することにより、職員の意識の再確認を図る。ミーティングでは個々に目標を設定し、具体的なケアに於いて意見の統一を図っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に説明を行ったり、運営推進会議でも理念の説明をし職員全員が理念に沿った介護を日々行なっていくよう取り組んでいます。ご家族さまには行事等の参加や面会等の際には折りに触れ説明を行なっています。	ご家族、運営推進のみの広報に留まらず、地域に向け回覧等を利用して頂きホームの活動内容等のお便りを発信して行けるよう取り組んで行きたいと思います。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々の挨拶や散歩の際には 近所の方とお天気の話などをして気軽に立ち話をできるように、近所の方が毎日の散歩する光景を見て、おすそ分けをくださるようにならなってきた。以前、お向かいに住まれていた方が現在も、ホーム傾斜の草刈のボランティアや近所の方をお誘いして気軽に見学に来てくださっている。	今後も町内会の皆様が気軽にお話しや気軽に立ち寄りいただけるよう、日々の挨拶から少しずつ親しみを持たれるよう努めていく。利用者様が近隣の美容室に通われたりと良い関係が少しずつ出来ているかと思えます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。リサイクル活動に参加している。利用者様が常連となり信頼関係を築かれている美容室の方にもご協力を得て、運営推進会議にも参加して頂くことが出来るようになった。	今後も町内会行事には、職員と利用者の皆様が積極的に参加出来る場面をフロアー会議にて話し合い、地域との密着を目指す交流に努めていけるよう考えています。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム横のゴミステーションの掃除や利用者様と近隣を散歩時に、足元などに落ちているゴミなどを拾うなどのことを小さな事をしていきます。散歩中や玄関先にて、ご近所の方に認知症かもしれない症状のあるご家族の悩みや疑問についての相談も受けることがあります。	民生委委員宅・町内会長宅もご近所ということもあり、相談や質問したいことあれば気軽に訪問させて頂いています。職員と利用者様とが一緒に地域に対して小さな事からでも何か役立てることは無いか等をフロアーで検討し取り組んで行けるよう今後の課題と考えています。また、ご近所の方の認知症に対する疑問・質問・相談等はお役に立てることであれば随時、相談対応に今後も心掛けて行きたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>新しい職員にまでは浸透していませんが、今後も職員全体に自己評価・外部評価の意義を伝え理解・実施にあたる。また、前回の今後も評価結果を組織全体で改善対策を具体的に話し合い取り組むよう努める。</p>	<p>今後も管理者・介護支援専門員は法令の意義を理解するように努め、ホーム理念を職員と共に構築し、日々のケアの中で実践に活かすことのできるよう職員との話し合いの場を繰り返し作り対話の中から浸透させていく取り組みを積極的に行なうよう考えています。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>毎回、運営推進会議をどのように行なうか試行錯誤しています。徐々にではあるが、取り上げられた検討事項について経過報告や話し合いを行い積み上げていくように努めています。毎回、現在取り組んでいる内容について報告をし意見をもらい、助言・意見・要望を基にフロア会議の場に於いて職員全員で話し合い質の向上に努めています。</p>	<p>今後も運営推進会議開催においては、包括支援委員・民生委員・町内会長・町内会役員・地域協力員・ご家族様・利用者様のご意見や助言を頂き、今後もホームらしさを出して行けるよう取り組み、改善・向上に活かすよう努める。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も地域の管理者連絡会に参加し交流を図り、包括支援センター・介護保険課・保健福祉課・保健所等に気軽に相談や助言を頂けるよう連携を継続に努める。</p>	<p>今後も分からないことや相談・質問等があった時には、色々な専門分野の方々に適切なアドバイスや指導の下、質の向上に努めて行きたいと考えています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者職員・介護支援専門員・職員を含め今後の大きな研修課題となります。理解の認識もまだまだ薄く全員に浸透しきれいていません。</p>	<p>今後、理解を深める為、多くの研修会・勉強会・説明会等に参加をして、ホーム内研修会を重ねてホーム職員全員で理解を深めて行きたいと思えます。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>フロア会議でも、話し合いを行なっています。ホール内・休憩室にポスターを掲示しています。日々の暮らしの中で職員一人ひとりが行動・言葉使いに配慮し、職員自身にもストレスを生じないよう、管理者職員間で出来るだけ話を聞ける体制を取るよう努めています。</p>	<p>管理者・介護支援専門員・リーダーは毎年、説明会・研修会に参加してありますが、今後は職員全員が説明会・研修会に参加出来るような体制づくりをして、参加後は社内勉強会を繰り返し行い、職員全員で理解を深めて行きたいと思えます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に時間をかけ、契約書・重要事項説明書を利用者様・ご家族様に説明をして理解・納得して頂きました後、署名と捺印を頂いています。</p>	<p>説明時に随時、不明な点・疑問な点があった際には、明快な答えをできるように心掛け理解して頂くよう努めています。また、何度でも気軽に質問をして頂くことにより信頼関係と安心感を持って頂けるよう配慮しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見・不満・苦情は態度からその思いを察する努力をし、お話を伺っています。又、随時対応していますが、フロア内のご事情などは会議などでも職員に説明し、それらを反映できるような体制をとっています。また、運営推進会議でもご本人の意見・不満・苦情を言って頂き、運営に反映するよう心掛けています。		運営推進会議には多くの利用者様に参加をして頂き、ご本人には、意見・不満・苦情何でも言って頂き、より満足していただく為にとお話ししております。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	当グループホームにおきましては、ふれあい日記というノートがあり、複写になっていて日々の様子を毎日、日勤者と夜勤者が記入し複写の1枚をご家族様に毎月送付し利用者様がどのように日々過ごされているのか記録を通してご理解頂けるようになっています。また金銭管理に付きましては、お小遣いの収支は月末、二重チェックを行いチェックした用紙を領収書・記録と一緒に送付しています。		ご家族様が来訪時には、管理者・職員より利用者様の状況報告をしています。また、緊急時や何らかの変化・問題等が生じた際には、随時連絡・報告を出来るようにしています。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者及び全職員がご家族様に気軽に何でも話をして頂けるような雰囲気作りで心掛けています。ご家族様の意見・不満・苦情箱を玄関内に設置し、随時対応して頂けるようにも配慮しています。問題等は会議などで職員に説明・話し合いの場を設け、それらを反映できるような体制になっています。運営推進会議でもご家族様の意見・不満・苦情を言って頂き、運営に反映に努めています。		運営推進会議に多くのご家族様の参加を呼びかけをしていくと共に、会議にて意見・不満・苦情何でも話をして頂き、今後も反映に努めます。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会社上層部と個人面談を行なう機会を設け、職員の意見を聞き改善出来る所は今後も改善し反映していきたい。今後も管理者は会社上層部と職員のパイプ役となり、職員が意欲・向上心を持って働きやすい職場作りを心掛ける。		今後も管理者はパイプ役となり、職員の意見に耳を傾け職員の多くの声を会社上層部に伝えると共に、会社の方針については職員に随時説明を行ない、更なる職場向上に務めていきたいと考えてます。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて勤務時間の変更、勤務体制の見直しをしている。		今後も必要に応じて勤務体制や時間の変更を行なって行きたいと考えています。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の生活環境に出来る限り配慮し働きやすい職場作りを心掛け、離職を抑えられるよう努めており、日々馴染みの顔が側にあるよう努力をしています。		管理者は職員が些細な悩みから大きなストレスを抱えないように、配慮し指導にあたるよう努める。また、スーパーバイザーに随時、相談可能な体制となっています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	地区や組織での管理者研修が定期的にある。市の研修である実践者研修も経験に応じて参加出来るようになっているが、職員間では、勤務帯や休みの都合上、難しい面がある。		質の向上を考えて市の実践者研修は将来職員全員が受講できる状況にしていく予定ではあるが、今後の大きな課題として、年間予定を明確にし、個々の経験年数や段階や用途に合わせて職員全員が必要とされる研修等に参加・受講が出来る体制・確保を必要と考える。職員の意欲を高め・技術向上に努めることが必要とされる為、積極的に提案・実現化するよう取り組みが出来るようにしたいと考えています。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地区の管理者連絡会主催によるスタッフ研修会・勉強会に参加をし、他のホームの職員と意見交換や事例検討などを行っています。		今後は当ホーム職員全員が他のホームの協力のもと、訪問する機会を検討・考案し、実現化に向けて行きたいと思います。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個々の生活環境を理解・把握し、希望の休みをシフトに反映して常にリフレッシュ出来るよう、休憩室・休憩時間の確保が出来るよう配慮をし、ストレスの軽減に取り組んでいます。組織と現場との相違点もストレスの原因となりうることもあるので、いつでも明るい職場であるよう注意をはらうよう心掛ける。		介護の仕事は目配り気配り心配りと、常に神経を張り巡らせる為、精神的にも肉体的にも疲労感も多く、ストレスを強く感じる傾向にあるので、休みや休憩時間はリフレッシュする為には重要であり、介護に対する悩みやストレスを家庭に持ち込まないよう、個別に公私共に相談に耳を傾ける体制を作るように今後も心掛けたいと思います。問題点があれば話し合い改善策を考える。管理者が対応出来ない場合は、スーパーバイザーに相談する対応体制をとっています。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	日々の勤務に対する努力を評価し、適切でない事があれば指導していくよう取り組んでいます。会社上層部との個人面談も重要と思われます。		今後はスキルアップを図る課題として、段階に応じて外部研修や外部勉強会への参加が重要であり、その成果を社内勉強会の発表の場を設けることにより、職員間での個々の向上心と共にチームとしての向上に繋がると思われる為、積極的に検討・提案・実現化に取り組みたいと思います。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、事前にご本人やご家族様とお会いしてお話を伺い、現在困っていること今後不安材料になるようなことを伺い、入居後もご本人と出来るだけ話せる機会を多く持ち、希望や求めているものをしっかりと受け止めて、早期に実現できるよう実現に近づけるよう努力をしています。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、ご本人が望んでいることを踏まえて、他のグループホームの見学も進めた上で見学して頂き、説明も同時に行い不安や希望などを話し合い受け止める努力をしています。		見学時は可能であれば、利用者さまとお茶を飲んだりお話が出来る機会を設けられるような対応をして行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の相談の段階ではお話を伺い、グループホーム対応が適応しているのか、または他のサービスが適応可能であれば系列の所の紹介、その他の所でもその方のニーズにあった所であれば紹介も行なっています。		地区内でもネットワークを利用し他社への紹介も行なっています。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前・入居後も、ご本人またはご家族様にもご自宅での今までの生活を伺い、環境変化に馴染めず戸惑うことのないように過ごして頂けるようなサービスの提供と、ご本人に合った支援・援助を行なって行けるよう工夫している。		職員や他の利用者様に慣れるまでには時間を要すると思われる為、様子観察を行ないゆっくりと時間をかけ何度も話を傾聴する。会話の内容を記録に残し職員間で共有し多くの情報の確保し個人の理解に努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長年の経験の下、話を伺うにあたり利用者様に気付かされる事多くあります。		何が得意であるかを早期に見出して見極めるよう、日々の会話の中から探し発見時は、より早く取り組めることができるように職員間でも話し合い実施に努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と笑ったり、楽しいと感じたことをご家族様が面会に来訪した際、報告したりご家族様が一緒に参加して頂く機会を増やすよう心掛ける。		ご本人様がどのような時代背景に生きてこられ、どのような日々を過ごされてきたのか、また、ご家族様はどのような思いだったのかを面会時に伺う機会があったときは、色々な思いの中に共に支えあう関係を大切にしていきたいと思えます。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々記録を通し、今のご本人様の状況・変化をいつでも感じられるように対応し、入居時もご本人様にとって一番必要な存在であり、入居されてからも出来るだけご本人様、ご家族様を中心に支援して行きたいという説明をしています。		ご家族様が面会時は管理者・職員が近況報告を行い、管理者・職員のご家族様と良い関係が築けるように努めています。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問者や外部からの電話・葉書き・手紙は関係が途切れぬように配慮し、支援に努めています。		あらかじめ、ご家族様の許可を頂き確認もさせて頂いています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	良い関係が利用者同士では築くこと困難である場合が多いので、共に良い関係でいれるよう利用者様の長所・短所を把握し支えあう環境作りに今後も取り組んで行きたいと考えています。		一人ひとりにならないよう職員が把握し、孤立しがちな方には職員と一緒に輪の中に入り馴染めるような環境づくりに努め、関わりを持てるように支え共に生活できるよう取り組んでいます。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も連絡が取りやすい状況を継続するように努めています。		退去された利用者様のご家族様が気軽に立ちよられる関係が出来ている。退去されたご家族様が懐かしく思われ、連絡や来訪等があったりもする。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々話されることに耳を傾けることにより、今の思いや精神状態・また、どのような生活を送って行きたいかを言葉の端々より汲み取るよう努める。		職員全員参加の下、行なわれるフロアー会議では、個々のニーズに合った支援・思い・希望をどのようにして実現に向けていくのかを検討。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様の話やこれまでの生活を支援されてきた事業者のからの話を伺い、職員と情報を共有し把握に努めるようにしています。		入居後も不明な点があれば、その都度関わりを持った方に連絡しこれまでの生活リズムを保てるよう配慮して行きたいと思います。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、変わる表情・健康状態・言葉を通し心身の状態の把握に取り組み、状態の変化に伴い、その都度対応出来るよう努めるようにしています。		今後も支援経過を利用しいつもと違った言葉・行動・表情を一月ごとに拾い長期的なプランへつなげ、その人らしい暮らし・あり方の継続に努めて行きたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員と共に日々のコミュニケーションの中から、ご本人様の希望を引き出すようにする。キーパーソンの方が来訪の際には、希望や些細なことでも本音で話して頂けるよう気軽に雰囲気づくりを心掛け、介護計画書に反映できるようにする。		面会回数が少ないようであれば、状況報告を兼ねて手紙や電話連絡もしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常は短期目標の3ヶ月に一度の見直しを行なっているが、介護保険証の更新時、体調の変化時、入退院後、医師のアドバイスがあった時は随時見直しを行なっています。		作成前はご本人様・キーパーソンの意見を伺い・考慮するよう努め、作成後は説明を行なっています。時間を要しても、署名捺印はご本人・キーパーソンより頂いてます。今後も利用者様・ご家族様に誠意を持って作成・対応をしていきたいと思っております。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日誌の記録をし、毎月キーパーソンに送っています。毎月のフロアー会議、日々の申し送りを行なっています。職員がいつでも目を通すことが出来るようにしている。		支援経過表には、普段と違う事があれば記入し、それを基に介護計画書の作成に役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	全バリアフリーとなっているので、廊下・手すりを利用し歩行運動・下肢筋力の低下防止に努めている。		職員のアイデアにより、ホールの壁・窓を利用し装飾などを行なっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	理容・美容室等に定期的に出張を行ってます。希望される利用者様には外出を兼ねて、理容・美容室にもお連れしています。希望される利用者様には買い物も兼ねて、外食にお連れしています。定期的に移動販売による買い物を行なっています。希望される利用者様には気分転換を兼ねて、リハビリエステを定期利用しています。		近くに手稲警察署もあるので、立ち寄られることもあります。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	理容・美容室等に定期的に出張を行ってます。希望される利用者様には外出を兼ねて、理容・美容室にもお連れしています。希望される利用者様には買い物も兼ねて、外食にお連れしています。定期的に移動販売による買い物を行なっています。希望される利用者様には気分転換を兼ねて、リハビリエステを定期利用しています。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居の希望があり見学や運営推進会議に参加して頂き助言などをして頂いたり協働しています。		手稲区包括支援センター主催の手稲ふれあいフェスティバルにも、毎年協力参加を実施している。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居以前よりかかりつけ医の受診を受けられている方につきましては、定期受診をご家族様対応にて受診されています。また、ご家族様対応が不可能な場合はホーム側で対応しています。		ホーム側対応時は、管理者または、日勤職員が1名同行し医師の相談・状況報告を行っております。職員は医師の前で利用者様ご自身が普段見せない顔や言葉を聞く機会があり、その方の受診時の様子を踏まえ理解出来るよう努めています。また、受診時に話した内容は、医師の話を踏まえ介護計画書に反映させています。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診時にかかりつけ医が直接ご本人より話を聞いた後、管理者や職員からの報告・相談が出来る体制になっており、医師にも利用者様の個々の状況を理解して頂きながら往診時対応しています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間連絡が取れる体制になっており、普段より些細な事でも相談に応じています。		看護師は現在、在中していませんが常に連絡・相談できる体制であり、日々の情報の共有も行なっています。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかりつけ医とは常に日頃から情報の共有を図り、早期のうちに入退院の相談を行ないながら、退院後の注意点・今後に向けての方向性を明確に連携を取っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時の契約の際、重度化や終末期のあり方についての説明をすると共に確認を行なっています。		重度化、終末期については、よりご家族様の意向を明確にした上で文章に残し、意に沿えるよう今後、検討して行きたいと思えます。また、今後はホーム全体で考え・話し合いの場を多くしていかなければならない重要な課題と思えます。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在、重度化された方はいませんが、今後は事業所として変化に備え取り組んでいかなければならない重要な課題と考えています。		今後は可能な限り、ご家族様・職員と共に考えていかなければならない重要な問題、大きな課題と受け止めています。その為にも、事業所主催の勉強会の開催を提案していきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご主人が別のグループホームにて入居されており、ご家族の意向により空き待ちにて住み替えとなった例が過去に、1件ありました。ご家族様・受け入れ先グループホームとの日常の過ごし方・様々な情報の提供と連携を密に取ることで、利用者様のダメージや不安を最小限に止めることが出来たと思われま。</p>		<p>ご家族様・住み替えとなったグループホーム先とは、その後も連絡・連携が何時でもとれる関係を今現在も継続しています。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>年齢的に戦争の混乱期を経験されたり、様々な苦難・苦労を乗り越え今日の生活を築いてこられた方々が多く、敬意と尊敬を念頭に置き日々を接するよう心掛けていますが、言葉掛けに配慮不足の部分もないとはいえない為、今後も利用者様の立場になって考えて言動・行動に細心の注意を促し指導して行きたいと思ひます。</p>		<p>一人ひとりを尊重し、日々笑顔を引き出しそれが毎日続くように日毎回数が多くなって行くよう接して行きたいと思ひます。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の会話・動作様々な角度より利用者様の思いを汲み取れるよう、ご本人様の希望により近づけるよう支援し、力になり実現に向かう暮らしが出来よう支援をして行きたいと思ひます。また、職員間だけでは不可能と思われる時には、ご家族様にも協力をして頂けるよう相談をしてご本人様が希望・納得した暮らしをしていけるよう今後も努めたいと思ひます。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとり様々な日常を過ごし、職員は意思を尊重しその人らしい日々を送れるよう、また尊厳を支えていくために出来る限りの支援を今後も行なって行きたいと思ひます。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>今後もご本人様の好まれる清潔感のある服装をして頂き、またご本人様の希望されるお洒落を続けて行けるよう支援して行きたいと思ひます。個々に好まれる髪型をしており、理容・美容室は個々の希望を取り入れて外出・出張の両方を行なっています。</p>		<p>今後もご本人の個性を尊重したお洒落をして頂けるよう配慮したいと思ひます。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材は業者より配送されており、献立表も配付されており毎食のカロリーが記載されている。食事の下ごしらえ・茶碗拭き・テーブル拭きなどを職員と一緒にお手伝いを好まれる利用者様には楽しみながらお手伝い頂いてます。</p>		<p>誕生日や季節の行事食等の企画を取り入れて、季節に合わせた旬の食事やお好み食等の提供も行なっています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の希望を取り入れ、タバコ・お酒・飲み物・おやつ等の提供をしています。		今後も日常的に楽しむことが出来るよう取組んで行きたいと思えます。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	今後も個々の排泄パターンを把握し、ご本人が不快に不安に感じないように対応し、衛生面でも配慮を行なう。		一人ひとりの排泄パターンを理解・把握して、安心した生活を送れるよう支援して行きたいと思えます。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ゆっくりとご本人の体調に合わせた入浴を心掛けています。		今後も継続して行きたいと思えます。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床時間・就寝時間も個々に習慣がありますので、尊重して安心な眠りが出来るように支援しています。		今後も夜間安眠できるように見守り・声掛けを行なうと共に、朝までの巡回を行い個々の安全確認をする。また、眠れないような時には職員が話し相手となったり、一緒に飲み物を飲んだりして不安を取り除くよう支援を行なっていきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的。			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩やベンチで過ごす時や余暇の時間、くつろいでいる時に職員も一緒に座り、色々な話題を投げかけ話を引き出し日々の楽しみごとに結び付けて行けるよう取組んでいます。		季節ごとに個人の行事への思いを伺い、個別でも対応出来るように心掛け取組んで行けるよう考えて行きたいと思えます。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の希望に応じて、日々の散歩の際のお買い物やお買い物を目的とした外出、又は出張販売なども設けるなどの支援をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個別対応を行っており、お天気の良い日には散歩の実施をしています。		希望者には、事前に日程を決めて外出を実施しています。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望者をつのり、日帰り温泉ツアーを企画・実施を行いました。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人の希望があれば支援を行なってます。		今後も継続して行きたいと思います。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様の面会時などは、ゆっくりと会話ができるよう配慮し、職員より近況報告を行ったり情報交換の場としても面会は重要と意識し対応を行なっています。		行事の際には、お便りや電話連絡にて参加をお願いしたり等を実施しています。今後も継続して行きたいと思います。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者様の身体状況に合わせてケアが変更になる際には、随時職員に身体拘束になっていないか等の確認を行なっています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は夜間以外は施錠をしておりません。		日中帯は利用者様の行動の予測を考えながら、職員間でのコミュニケーションと目配りにて注意をしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者様の行動の予測を考えながら職員が業務にあたっています。アクシデントに繋がらないよう今後も細心の注意をはらい継続して行きたいと思います。		今後も細心の注意をはらい継続して行きたいと思います。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一見意志の疎通はスムーズに見えるが困難な方や、すぐに忘れてしまわれ繰り返しの説明を必要とされる為、一人ひとりの行動の予測を行いつつ、事故に結びつかないよう取り組んでいます。薬品洗剤類は利用者様の目の届かない場所への保管を行なって事故が起こらないよう取り組んでいます。		今後も細心の注意をはらい継続して行きたいと思います。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	フロアー会議、申し送り等で事前の事故防止策を話し合いを行なっています。また、事故が発生した際は会議を開き何故事故が発生したのかを話し合い今後の事故防止に繋がるよう取り組んでいます。		今後は、より事故の危険性を明確にしスーパーバイザーに相談・指示のもとリスクマネジメントの学習・研修等も取り入れて行きたいと思います。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署協力の下、ホーム内にて普通救命講習の受講の実施をしています。		急変時は協力病院へ連絡、発熱時は往診時に付き添い看護師へ24時間連絡が取れる体制。緊急対応マニュアルもいつでも職員が手に取り見る事が出来る体制になっています。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署協力の下、避難訓練・防災訓練・消火訓練(年2回)実施をしています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご本人様のリスクに対しては、日々の記録、ご家族様が面会時に報告し十分に話し合うようにしています。また、身体状況が変わって来たような時は介護計画書に盛り込むなどの取り組みをして行くよう今後の課題となっています。		今後、スーパーバイザーに相談・指示の下リスクマネジメントの学習・研修等も取り入れて行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>月2回の往診時に主治医に状態の報告・指示を頂き、また毎日のバイタル測定を行い日々の状態観察や睡眠の状態など行なっている。その他、毎日の申し送り・記録・支援経過などで職員が個々の状態の把握に努めています。</p>	<p>常に状態の変化・異変の発見に努め、気付いた際には主治医へ情報の提供を行い早期・対応に努めています。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの処方箋は職員が常に情報として何時でも見れるようにしています。服薬前・服薬後の確認を行なう。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便状況を主治医に報告し、状況に応じ指示を頂き、日々便秘傾向にならないように職員間で情報の共有を行なっている。朝の申し送り時の個々の排便状況の確認も行なっている。</p>	<p>個々の毎日の水分量の把握。ラジオ体操の参加や散歩にて運動不足解消。水分量が不足ぎみの方には個別にて水分の重要性についての説明をさせて頂き、ご本人様が水分を取りやすいように工夫・個別対応をしている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行い、個々に口腔ケアを見守り・確認。一部介助が必要な方には、職員が介助を行い衛生保持に努めています。</p>	<p>歯科定期健診と必要な方には、歯科衛生士による口腔指導を実施。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食材は業者より配送されており、献立表も配付されており毎食のカロリーが記載されている。個々の利用者様の状態に合わせて調理・工夫をしている。</p>	<p>個々の一日の水分摂取量・食事を記録し把握されている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止マニュアルを職員が何時でも手に取り見れるよう、職員一人ひとりが理解・対応出来るよう指導を行なっています。</p>	<p>フロア会議でも説明・プリント等の配付・連絡ノートや申し送りにても指導を行なっています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	感染対応策として、調理に携わる職員の調理前の手洗いの徹底・使用後は調理器具の消毒を都度行い、食事前には利用者様全員の手洗いの徹底も行い、残った食べ物は毎回破棄するように努めています。		万が一を考え、毎食作った物を冷凍保存するという検食も行なっています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の階段にプランターを置き、色々な草花を植えることにより利用者の皆様やご家族様近隣の方が親しみを持って花を愛でていただくことが出来るよう工夫しています。		玄関前にベンチを設置することにより、利用者の皆様やご家族様来訪の際また、近隣の方が気軽に腰を下ろしくつろげる場となる事が出来るよう工夫しています。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂兼リビングとなっている為、廊下奥にひとり掛けようのソファを2脚設置し造花ではあるが花を飾り一息つける空間づくりをしている。食堂の壁や窓ガラスを利用して、室内でも四季折々の季節感を楽しんでもらえるよう装飾係り職員協力のもと工夫をしています。		室内の温度調整・照明にも配慮を行なっている。室内全体の匂いについても配慮・工夫を行なっている。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂兼リビングとなっている為、廊下奥にひとり掛けようのソファを2脚設置し造花ではあるが花を飾り一息つける空間づくりをしている。食堂の壁や窓ガラスを利用して、室内でも四季折々の季節感を楽しんでもらえるよう装飾係り職員協力のもと工夫をしています。		廊下の壁を利用して、行事などで写した写真を利用者様の目線に合わせて掲示しています。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の面積は皆同じで置かれる家具には限りがありますが、利用者様の意向を汲み取り・可能性と機能性の両面を考慮して、住み心地良い空間づくりを一緒に考えています。		個々に利用者様の希望に沿った居室となっています。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の居室掃除の際の換気や季節により換気の声掛けを行っていますが、困難な方に対しては職員が定期的に温度・湿度の調節もこちらで行なうよう対応しています。トイレなど共有の場所については職員が常に気を配り換気・消臭の徹底をしています。		冬期間は特に暖房使用により、乾燥しやすい為、各居室に温度計・湿度計を設置していますので、個々のバスタオルを利用して乾燥防止湿度調整に配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>室内は全バリア・フリーとなっており、手すりバーも設置されています。トイレドアも3枚開きにて、車イス使用者の方でも使用しやすい工夫がなされています。</p>	<p>廊下の手すりバーを利用されるなど、個々にリハビリを気軽に行ったりもしています。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室入り口には、ご本人やご家族様より許可を頂き、ご自身の写真やお名前を貼った表札のような目印をご本人の目線に合わせて掲げて、自立生活ができるよう工夫をしています。</p>	<p>ご本人の意見・ご要望を取り入れて工夫しています。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前の階段にプランターを置き、色々な草花を植えることにより利用者の皆様やご家族様 近隣の方が親しみを持って花を愛でいただくことが出来るよう工夫しています。</p>	<p>プランターの水やりやお花の手入れは利用者様と職員が一緒に行なっています。気軽に一休み出来るようにベンチを設置しています。</p>



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日頃の会話や表情・様子などからおおむね理解していると思われる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>昼食を職員も一緒に食べることにより、会話の場を多く取り入れる工夫をしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個々に利用者様の生活のペースがあり、自分らしく暮らしています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個々の利用者様の出来ることへの参加により能力を発揮していただき、表情にも表れていると思います。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望があれば、家族対応・職員対応にて実施をしている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>月2回内科往診・体調不良時には往診可能 その他の医療との連携可能 ・歯科往診可能</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>様々な状況に応じ、ご家族様のご協力・連携を図り、柔軟な体制で支援をしています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>ご家族様と信頼関係が深まり、より良い関係を継続するよう努めています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>運営推進会議や散歩・移動販売日・定期出張訪問等により徐々にではあるが増えていきます。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない  運営推進会議を通し、賛同のもと地域協力員を得ることが出来た。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない  充実して働いていると思われる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない  おおむね満足していると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない  おおむね満足していると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】	
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)	キーパーソンとなるご家族様が近くにいらっしゃらない方も多いため、孤独感や孤立感を抱えないよう、日頃より職員が配慮し日常の支援にあたっています

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームアイケア手稲(2F)	評価実施年月日	H19年 8月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	梶本 有貴	記録年月日	H19年 8月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念に基づいて取り組んでいます。	今後は掘り下げて、地域密着型サービスを織り込んだ理念を加えると、より様々な活動を通し地域に溶け込めるような意識づけ・向上に繋がると思っています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関・ホール・事務所・休憩室に掲示し、職員全員が理念を意識し介護に努めています。理念は浸透していると思われるが、今後も年間目標・月間目標を設定し職員間の共有を図ることにより、具体的なケアについての意見の統一と継続に努める。	利用者の皆様やご面会に来られる皆様の目に触れる所に掲示することにより、職員の意識の再確認を図る。ミーティングでは個々に目標を設定し、具体的なケアに於いて意見の統一を図っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に説明を行ったり、運営推進会議でも理念の説明をし職員全員が理念に沿った介護を日々行なっていくよう取り組んでいます。ご家族さまには行事等の参加や面会等の際には折りに触れ説明を行なっています。	ご家族、運営推進のみの広報に留まらず、地域に向け回覧等を利用して頂きホームの活動内容等のお便りを発信して行けるよう取り組んで行きたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々の挨拶や散歩の際には 近所の方々とお天気の話などをして気軽に立ち話をできるように、近所の方が毎日の散歩する光景を見て、おすそ分けをくださるようにならなってきた。以前、お向かいに住まれていた方が現在も、ホーム傾斜の草刈のボランティアや近所の方をお誘いして気軽に見学に来てくださっている。	今後も町内会の皆様が気軽にお話しや気軽に立ち寄りいただけるよう、日々の挨拶から少しずつ親しみを持たれるよう努めていく。利用者様が近隣の美容室に通われたりと良い関係が少しずつ出来ているかと思えます。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。リサイクル活動に参加している。利用者様が常連となり信頼関係を築かれている美容室の方にもご協力を得て、運営推進会議にも参加して頂くことが出来るようになった。	今後も町内会行事には、職員と利用者の皆様が積極的に参加出来る場面をフロアー会議にて話し合い、地域との密着を目指す交流に努めていけるよう考えています。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム横のゴミステーションの掃除や利用者様と近隣を散歩時に、足元などに落ちているゴミなどを拾うなどのことを小さな事をしていきます。散歩中や玄関先にて、ご近所の方に認知症かもしれない症状のあるご家族の悩みや疑問についての相談も受けることがあります。	民生委委員宅・町内会長宅もご近所ということもあり、相談や質問したいことあれば気軽に訪問させて頂いています。職員と利用者様とが一緒に地域に対して小さな事からでも何か役立てることは無いか等をフロアーで検討し取り組んで行けるよう今後の課題と考えています。また、ご近所の方の認知症に対する疑問・質問・相談等はお役に立てることであれば随時、相談対応に今後も心掛けて行きたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>新しい職員にまでは浸透していませんが、今後も職員全体に自己評価・外部評価の意義を伝え理解・実施にあたる。また、前回の今後も評価結果を組織全体で改善対策を具体的に話し合い取り組むよう努める。</p>	<p>今後も管理者・介護支援専門員は法令の意義を理解するように努め、ホーム理念を職員と共に構築し、日々のケアの中で実践に活かすことのできるよう職員との話し合いの場を繰り返し作り対話の中から浸透させていく取り組みを積極的に行なうよう考えています。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>毎回、運営推進会議をどのように行なうか試行錯誤しています。徐々にではあるが、取り上げられた検討事項について経過報告や話し合いを行い積み上げていくように努めています。毎回、現在取り組んでいる内容について報告をし意見をもらい、助言・意見・要望を基にフロア会議の場に置いて職員全員で話し合い質の向上に努めています。</p>	<p>今後も運営推進会議開催においては、包括支援委員・民生委員・町内会長・町内会役員・地域協力員・ご家族様・利用者様のご意見や助言を頂き、今後もホームらしさを出して行けるよう取り組み、改善・向上に活かすよう努める。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>今後も地域の管理者連絡会に参加し交流を図り、包括支援センター・介護保険課・保健福祉課・保健所等に気軽に相談や助言を頂けるよう連携を継続に努める。</p>	<p>今後も分からないことや相談・質問等があった時には、色々な専門分野の方々に適切なアドバイスや指導の下、質の向上に努めていきたいと考えています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者職員・介護支援専門員・職員を含め今後の大きな研修課題となります。理解の認識もまだまだ薄く全員に浸透しきれていません。</p>	<p>今後、理解を深める為、多くの研修会・勉強会・説明会等に参加をして、ホーム内研修会を重ねてホーム職員全員で理解を深めていきたいと思えます。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>フロア会議でも、話し合いを行なっています。ホール内・休憩室にポスターを掲示しています。日々の暮らしの中で職員一人ひとりが行動・言葉使いに配慮し、職員自身にもストレスを生じないよう、管理者職員間で出来るだけ話を聞ける体制を取るよう努めています。</p>	<p>管理者・介護支援専門員・リーダーは毎年、説明会・研修会に参加してありますが、今後は職員全員が説明会・研修会に参加出来るような体制づくりをして、参加後は社内勉強会を繰り返し行い、職員全員で理解を深めていきたいと思えます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に時間をかけ、契約書・重要事項説明書を利用者様・ご家族様に説明をして理解・納得して頂きました後、署名と捺印を頂いています。</p>	<p>説明時に随時、不明な点・疑問な点があった際には、明快な答えをできるように心掛け理解して頂くよう努めています。また、何度でも気軽に質問をして頂くことにより信頼関係と安心感を持って頂けるよう配慮しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見・不満・苦情は態度からその思いを察する努力をし、お話を伺っています。又、随時対応していますが、フロア内のごことは会議などでも職員に説明し、それらを反映できるような体制をとっています。また、運営推進会議でもご本人の意見・不満・苦情を言って頂き、運営に反映するよう心掛けています。		運営推進会議には多くの利用者様に参加をして頂き、ご本人には、意見・不満・苦情何でも言って頂き、より満足していただく為にとお話ししております。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	当グループホームにおきましては、ふれあい日記というノートがあり、複写になっていて日々の様子を毎日、日勤者と夜勤者が記入し複写の1枚をご家族様に毎月送付し利用者様がどのように日々過ごされているのか記録を通してご理解頂けるようになっています。また金銭管理に付きまして、お小遣いの収支は月末、二重チェックを行いチェックした用紙を領収書・記録と一緒に送付しています。		ご家族様が来訪時には、管理者・職員より利用者様の状況報告をしています。また、緊急時や何らかの変化・問題等が生じた際には、随時連絡・報告を出来るようにしています。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者及び全職員がご家族様に気軽に何でも話をして頂けるような雰囲気作りで心掛けています。ご家族様の意見・不満・苦情箱を玄関内に設置し、随時対応して頂けるようにも配慮しています。問題等は会議などで職員に説明・話し合いの場を設け、それらを反映できるような体制になっています。運営推進会議でもご家族様の意見・不満・苦情を言って頂き、運営に反映に努めています。		運営推進会議に多くのご家族様の参加を呼びかけをしていくと共に、会議にて意見・不満・苦情何でも話をして頂き、今後も反映に努めます。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会社上層部と個人面談を行なう機会を設け、職員の意見を聞き改善出来る所は今後も改善し反映していきたい。今後も管理者は会社上層部と職員のパイプ役となり、職員が意欲・向上心を持って働きやすい職場作りに心掛ける。		今後も管理者はパイプ役となり、職員の意見に耳を傾け職員の多くの声を会社上層部に伝えると共に、会社の方針については職員に随時説明を行ない、更なる職場向上に務めて行きたいと考えてます。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて勤務時間の変更、勤務体制の見直しをしている。		今後も必要に応じて勤務体制や時間の変更を行なって行きたいと考えています。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の生活環境に出来る限り配慮し働きやすい職場作りを心掛け、離職を抑えられるよう努めており、日々馴染みの顔が側にあるよう努力をしています。		管理者は職員が些細な悩みから大きなストレスを抱えないように、配慮し指導にあたるよう努める。また、スーパーバイザーに随時、相談可能な体制となっています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	地区や組織での管理者研修が定期的にある。市の研修である実践者研修も経験に応じて参加出来るようになっているが、職員間では、勤務帯や休みの都合上、難しい面がある。		質の向上を考えて市の実践者研修は将来職員全員が受講できる状況にしていく予定ではあるが、今後の大きな課題として、年間予定を明確にし、個々の経験年数や段階や用途に合わせて職員全員が必要とされる研修等に参加・受講が出来る体制・確保を必要と考える。職員の意欲を高め・技術向上に努めることが必要とされる為、積極的に提案・実現化するよう取り組みが出来るようにしたいと考えています。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地区の管理者連絡会主催によるスタッフ研修会・勉強会に参加をし、他のホームの職員と意見交換や事例検討などを行っています。		今後は当ホーム職員全員が他のホームの協力のもと、訪問する機会を検討・考案し、実現化に向けて行きたいと思います。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個々の生活環境を理解・把握し、希望の休みをシフトに反映して常にリフレッシュ出来るよう、休憩室・休憩時間の確保が出来るよう配慮をし、ストレスの軽減に取り組んでいます。組織と現場との相違点もストレスの原因となりうることもあるので、いつでも明るい職場であるよう注意をはらうよう心掛ける。		介護の仕事は目配り気配り心配りと、常に神経を張り巡らせる為、精神的にも肉体的にも疲労感も多く、ストレスを強く感じる傾向にあるので、休みや休憩時間はリフレッシュする為には重要であり、介護に対する悩みやストレスを家庭に持ち込まないよう、個別に公私共に相談に耳を傾ける体制を作るように今後も心掛けたいと思います。問題点があれば話し合い改善策を考える。管理者が対応出来ない場合は、スーパーバイザーに相談する対応体制をとっています。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	日々の勤務に対する努力を評価し、適切でない事があれば指導していくよう取り組んでいます。会社上層部との個人面談も重要と思われる。		今後はスキルアップを図る課題として、段階に応じて外部研修や外部勉強会への参加が重要であり、その成果を社内勉強会の発表の場を設けることにより、職員間での個々の向上心と共にチームとしての向上に繋がると思われる為、積極的に検討・提案・実現化に取り組むたいと思います。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、事前にご本人やご家族様とお会いしてお話を伺い、現在困っていること今後不安材料になるようなことを伺い、入居後もご本人と出来るだけ話せる機会を多く持ち、希望や求めているものをしっかりと受け止めて、早期に実現できるよう実現に近づけるよう努力をしています。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前、ご本人が望んでいることを踏まえて、他のグループホームの見学も進めた上で見学して頂き、説明も同時に行い不安や希望などを話し合い受け止める努力をしています。		見学時は可能であれば、利用者さまとお茶を飲んだりお話が出来る機会を設けられるような対応をして行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の相談の段階ではお話を伺い、グループホーム対応が適応しているのか、または他のサービスが適応可能であれば系列の所の紹介、その他の所でもその方のニーズにあった所であれば紹介も行なっています。		地区内でもネットワークを利用し他社への紹介も行なっています。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前・入居後も、ご本人またはご家族様にもご自宅での今までの生活を伺い、環境変化に馴染めず戸惑うことのないように過ごして頂けるようなサービスの提供と、ご本人に合った支援・援助を行なって行けるよう工夫している。		職員や他の利用者様に慣れるまでには時間を要すると思われる為、様子観察を行ないゆっくりと時間をかけ何度も話を傾聴する。会話の内容を記録に残し職員間で共有し多くの情報の確保し個人の理解に努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長年の経験の下、話を伺うにあたり利用者様に気付かされる事多くあります。		何が得意であるかを早期に見出して見極めるよう、日々の会話の中から探し発見時は、より早く取り組めることができるように職員間でも話し合い実施に努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と笑ったり、楽しいと感じたことをご家族様が面会に来訪した際、報告したりご家族様が一緒に参加して頂く機会の場を増やすよう心掛ける。		ご本人様がどのような時代背景に生きてこられ、どのような日々を過ごされてきたのか、また、ご家族様はどのような思いだったのかを面会時に伺う機会があったときは、色々な思いの中に共に支えあう関係を大切にしていきたいと思えます。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々記録を通し、今のご本人様の状況・変化をいつでも感じられるように対応し、入居時ご本人様にとって一番必要な存在であり、入居されてからも出来るだけご本人様、ご家族様を中心に支援して行きたいという説明をしています。		ご家族様が面会時は管理者・職員が近況報告を行い、管理者・職員・ご家族様と良い関係が築けるように努めています。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問者や外部からの電話・葉書き・手紙は関係が途切れぬように配慮し、支援に努めています。		あらかじめ、ご家族様の許可を頂き確認もさせて頂いています。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	良い関係が利用者同士では築くこと困難である場合が多いので、共に良い関係でいれるよう利用者様の長所・短所を把握し支えあう環境作りに今後も取り組んで行きたいと考えています。		一人ひとりにならないよう職員が把握し、孤立しがちな方には職員と一緒に輪の中に入り馴染めるような環境づくりに努め、関わりを持てるように支え共に生活できるよう取り組んでいます。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も連絡が取りやすい状況を継続するように努めています。		退去された利用者様のご家族様が気軽に立ちよられる関係が出来ている。退去されたご家族様が懐かしく思われ、連絡や来訪等があったりもする。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々話されることに耳を傾けることにより、今の思いや精神状態・また、どのような生活を送って行きたいかを言葉の端々より汲み取るよう努める。		職員全員参加の下、行なわれるフロアー会議では、個々のニーズに合った支援・思い・希望をどのようにして実現に向けていくのかを検討。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様の話やこれまでの生活を支援されてきた事業者のからの話を伺い、職員と情報を共有し把握に努めるようにしています。		入居後も不明な点があれば、その都度関わりを持った方に連絡しこれまでの生活リズムを保てるよう配慮して行きたいと思います。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、変わる表情・健康状態・言葉を通し心身の状態の把握に取り組み、状態の変化に伴い、その都度対応出来るよう努めるようにしています。		今後も支援経過を利用しつつも違った言葉・行動・表情を一月ごとに拾い長期的なプランへつなげ、その人らしい暮らし・あり方の継続に努めて行きたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員と共に日々のコミュニケーションの中から、ご本人様の希望を引き出すようにする。キーパーソンの方が来訪の際には、希望や些細なことでも本音で話して頂けるよう気軽に雰囲気づくりを心掛け、介護計画書に反映できるようにする。		面会回数が少ないようであれば、状況報告を兼ねて手紙や電話連絡もしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常は短期目標の3ヶ月に一度の見直しを行なっているが、介護保険証の更新時、体調の変化時、入退院後、医師のアドバイスがあった時は随時見直しを行なっています。		作成前はご本人様・キーパーソンの意見を伺い・考慮するよう努め、作成後は説明を行なっています。時間を要しても、署名捺印はご本人・キーパーソンより頂いてます。今後も利用者様・ご家族様に誠意を持って作成・対応をしていきたいと思っております。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日誌の記録をし、毎月キーパーソンに送っています。毎月のフロアー会議、日々の申し送りを行なっています。職員がいつでも目を通すことが出来るようにしている。		支援経過表には、普段と違う事があれば記入し、それを基に介護計画書の作成に役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	全バリアフリーとなっているので、廊下・手すりを利用し歩行運動・下肢筋力の低下防止に努めている。		職員のアイデアにより、ホールの壁・窓を利用し装飾などを行なっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	理容・美容室等に定期的に出張を行ってます。希望される利用者様には外出を兼ねて、理容・美容室にもお連れしています。希望される利用者様には買い物も兼ねて、外食にお連れしています。定期的に移動販売による買い物を行なっています。希望される利用者様には気分転換を兼ねて、リハビリエステを定期利用しています。		近くに手稲警察署もあるので、立ち寄られることもあります。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	理容・美容室等に定期的に出張を行ってます。希望される利用者様には外出を兼ねて、理容・美容室にもお連れしています。希望される利用者様には買い物も兼ねて、外食にお連れしています。定期的に移動販売による買い物を行なっています。希望される利用者様には気分転換を兼ねて、リハビリエステを定期利用しています。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居の希望があり見学や運営推進会議に参加して頂き助言などをして頂いたりと協働しています。		手稲区包括支援センター主催の手稲ふれあいフェスティバルにも、毎年協力参加を実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居以前よりかかりつけ医の受診を受けられている方につきましては、定期受診をご家族様対応にて受診されています。また、ご家族様対応が不可能な場合はホーム側で対応しています。		ホーム側対応時は、管理者または、日勤職員が1名同行し医師の相談・状況報告を行っております。職員は医師の前で利用者様ご自身が普段見せない顔や言葉を聞く機会があり、その方の受診時の様子を踏まえ理解出来るよう努めています。また、受診時に話した内容は、医師の話を踏まえ介護計画書に反映させています。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診時にかかりつけ医が直接ご本人より話を聞いた後、管理者や職員からの報告・相談が出来る体制になっており、医師にも利用者様の個々の状況を理解して頂きながら往診時対応しています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間連絡が取れる体制になっており、普段より些細な事でも相談に応じています。		看護師は現在、在中していませんが常に連絡・相談できる体制であり、日々の情報の共有も行なっています。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかりつけ医とは常に日頃から情報の共有を図り、早期のうちに入退院の相談を行ないながら、退院後の注意点・今後に向けての方向性を明確に連携を取っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時の契約の際、重度化や終末期のあり方についての説明をすると共に確認を行なっています。		重度化、終末期については、よりご家族様の意向を明確にした上で文章に残し、意に沿えるよう今後、検討して行きたいと思えます。また、今後はホーム全体で考え・話し合いの場を多くしていかなければならない重要な課題と思えます。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在、重度化された方はいませんが、今後は事業所として変化に備え取り組んでいかなければならない重要な課題と考えています。		今後は可能な限り、ご家族様・職員と共に考えていかなければならない重要な問題、大きな課題と受け止めています。その為にも、事業所主催の勉強会の開催を提案していきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご主人が別のグループホームにて入居されており、ご家族の意向により空き待ちにて住み替えとなった例が過去に、1件ありました。ご家族様・受け入れ先グループホームとの日常の過ごし方・様々な情報の提供と連携を密に取ることで、利用者様のダメージや不安を最小限に止めることが出来たと思われま。</p>		<p>ご家族様・住み替えとなったグループホーム先とは、その後も連絡・連携が何時でもとれる関係を今現在も継続しています。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>年齢的に戦争の混乱期を経験されたり、様々な苦難・苦労を乗り越え今日の生活を築いてこられた方々が多く、敬意と尊敬を念頭に置き日々を接するよう心掛けていますが、言葉掛けに配慮不足の部分もないとはいえない為、今後も利用者様の立場になって考えて言動・行動に細心の注意を促し指導して行きたいと思ひます。</p>		<p>一人ひとりを尊重し、日々笑顔を引き出しそれが毎日続くように日毎回数が多くなって行くよう接して行きたいと思ひます。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の会話・動作様々な角度より利用者様の思いを汲み取れるよう、ご本人様の希望により近づけるよう支援し、力になり実現に向かう暮らしが出来よう支援をして行きたいと思ひます。また、職員間だけでは不可能と思われる時には、ご家族様にも協力をして頂けるよう相談をしてご本人様が希望・納得した暮らしをしていけるよう今後も努めたいと思ひます。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとり様々な日常を過ごし、職員は意思を尊重しその人らしい日々を送れるよう、また尊厳を支えていくために出来る限りの支援を今後も行なって行きたいと思ひます。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>今後もご本人様の好まれる清潔感のある服装をして頂き、またご本人様の希望されるお洒落を続けて行けるよう支援して行きたいと思ひます。個々に好まれる髪型をしており、理容・美容室は個々の希望を取り入れて外出・出張の両方を行なっています。</p>		<p>今後もご本人の個性を尊重したお洒落をして頂けるよう配慮したいと思ひます。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材は業者より配送されており、献立表も配付されており毎食のカロリーが記載されている。食事の下ごしらえ・茶碗拭き・テーブル拭きなどを職員と一緒にお手伝いを好まれる利用者様には楽しみながらお手伝い頂いてます。</p>		<p>誕生日や季節の行事食等の企画を取り入れて、季節に合わせた旬の食事やお好み食等の提供も行なっています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の希望を取り入れ、タバコ・お酒・飲み物・おやつ等の提供をしています。		今後も日常的に楽しむことが出来るよう取組んで行きたいと思えます。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	今後も個々の排泄パターンを把握し、ご本人が不快に不安に感じないように対応し、衛生面でも配慮を行なう。		一人ひとりの排泄パターンを理解・把握して、安心した生活を送れるよう支援して行きたいと思えます。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ゆっくりとご本人の体調に合わせた入浴を心掛けています。		今後も継続して行きたいと思えます。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床時間・就寝時間も個々に習慣がありますので、尊重して安心な眠りが出来るように支援しています。		今後も夜間安眠できるように見守り・声掛けを行なうと共に、朝までの巡回を行い個々の安全確認をする。また、眠れないような時には職員が話し相手となったり、一緒に飲み物を飲んだりして不安を取り除くよう支援を行なっていきます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩やベンチで過ごす時や余暇の時間、くつろいでいる時に職員も一緒に座り、色々な話題を投げかけ話を引き出し日々の楽しみごとに結び付けて行けるよう取組んでいます。		季節ごとに個人の行事への思いを伺い、個別でも対応出来るように心掛け取組んで行けるよう考えて行きたいと思えます。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の希望に応じて、日々の散歩の際のお買い物やお買い物を目的とした外出、又は出張販売なども設けるなどの支援をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個別対応を行っており、お天気の良い日には散歩の実施をしています。		希望者には、事前に日程を決めて外出を実施しています。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望者をつのり、日帰り温泉ツアーを企画・実施を行いました。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人の希望があれば支援を行なってます。		今後も継続して行きたいと思います。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様の面会時などは、ゆっくりと会話ができるよう配慮し、職員より近況報告を行ったり情報交換の場としても面会は重要と意識し対応を行なっています。		行事の際には、お便りや電話連絡にて参加をお願いしたり等を実施しています。今後も継続して行きたいと思います。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者様の身体状況に合わせてケアが変更になる際には、随時職員に身体拘束になっていないか等の確認を行なっています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は夜間以外は施錠をしておりません。		日中帯は利用者様の行動の予測を考えながら、職員間でのコミュニケーションと目配りにて注意をしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者様の行動の予測を考えながら職員が業務にあたっています。アクシデントに繋がらないよう今後も細心の注意をはらい継続して行きたいと思います。		今後も細心の注意をはらい継続して行きたいと思います。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一見意志の疎通はスムーズに見えるが困難な方や、すぐに忘れてしまわれ繰り返しの説明を必要とされる為、一人ひとりの行動の予測を行いつつ、事故に結びつかないよう取り組んでいます。薬品洗剤類は利用者様の目の届かない場所への保管を行なって事故が起こらないよう取り組んでいます。		今後も細心の注意をはらい継続して行きたいと思います。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	フロアー会議、申し送り等で事前の事故防止策を話し合いを行なっています。また、事故が発生した際は会議を開き何故事故が発生したのかを話し合い今後の事故防止に繋がるよう取り組んでいます。		今後は、より事故の危険性を明確にしスーパーバイザーに相談・指示のもとリスクマネジメントの学習・研修等も取り入れて行きたいと思います。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署協力の下、ホーム内にて普通救命講習の受講の実施をしています。		急変時は協力病院へ連絡、発熱時は往診時に付き添い看護師へ24時間連絡が取れる体制。緊急対応マニュアルもいつでも職員が手に取り見る事が出来る体制になっています。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署協力の下、避難訓練・防災訓練・消火訓練(年2回)実施をしています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご本人様のリスクに対しては、日々の記録、ご家族様が面会時に報告し十分に話し合うようにしています。また、身体状況が変わって来たような時は介護計画書に盛り込むなどの取り組みをして行くよう今後の課題となっています。		今後、スーパーバイザーに相談・指示の下リスクマネジメントの学習・研修等も取り入れて行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>月2回の往診時に主治医に状態の報告・指示を頂き、また毎日のバイタル測定を行い日々の状態観察や睡眠の状態など行なっている。その他、毎日の申し送り・記録・支援経過などで職員が個々の状態の把握に努めています。</p>	<p>常に状態の変化・異変の発見に努め、気付いた際には主治医へ情報の提供を行い早期・対応に努めています。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの処方箋は職員が常に情報として何時でも見れるようにしています。服薬前・服薬後の確認を行なう。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便状況を主治医に報告し、状況に応じ指示を頂き、日々便秘傾向にならないように職員間で情報の共有を行なっている。朝の申し送り時の個々の排便状況の確認も行なっている。</p>	<p>個々の毎日の水分量の把握。ラジオ体操の参加や散歩にて運動不足解消。水分量が不足ぎみの方には個別にて水分の重要性についての説明をさせて頂き、ご本人様が水分を取りやすいように工夫・個別対応をしている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行い、個々に口腔ケアを見守り・確認。一部介助が必要な方には、職員が介助を行い衛生保持に努めています。</p>	<p>歯科定期健診と必要な方には、歯科衛生士による口腔指導を実施。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食材は業者より配送されており、献立表も配付されており毎食のカロリーが記載されている。個々の利用者様の状態に合わせて調理・工夫をしている。</p>	<p>個々の一日の水分摂取量・食事を記録し把握されている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止マニュアルを職員が何時でも手に取り見れるよう、職員一人ひとりが理解・対応出来るよう指導を行なっています。</p>	<p>フロア会議でも説明・プリント等の配付・連絡ノートや申し送りにても指導を行なっています。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	感染対応策として、調理に携わる職員の調理前の手洗いの徹底・使用後は調理器具の消毒を都度行い、食事前には利用者様全員の手洗いの徹底も行い、残った食べ物は毎回破棄するように努めています。		万が一を考え、毎食作った物を冷凍保存するという検食も行なっています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の階段にプランターを置き、色々な草花を植えることにより利用者の皆様やご家族様 近隣の方が親しみを持って花を愛でていただくことが出来るよう工夫をしています。		玄関前にベンチを設置することにより、利用者の皆様やご家族様来訪の際また、近隣の方が気軽に腰を下ろしくつろげる場となることが出来るよう工夫しています。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂兼リビングとなっている為、廊下奥にひとり掛けようのソファを2脚設置し造花ではあるが花を飾り一息つける空間づくりをしている。食堂の壁や窓ガラスを利用して、室内でも四季折々の季節感を楽しんでもらえるよう装飾係り職員協力のもと工夫をしています。		室内の温度調整・照明にも配慮を行なっている。室内全体の匂いについても配慮・工夫を行なっている。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂兼リビングとなっている為、廊下奥にひとり掛けようのソファを2脚設置し造花ではあるが花を飾り一息つける空間づくりをしている。食堂の壁や窓ガラスを利用して、室内でも四季折々の季節感を楽しんでもらえるよう装飾係り職員協力のもと工夫をしています。		廊下の壁を利用して、行事などで写した写真を利用者様の目線に合わせて掲示しています。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の面積は皆同じで置かれる家具には限りがありますが、利用者様の意向を汲み取り・可能性と機能性の両面を考慮して、住み心地良い空間づくりを一緒に考えています。		個々に利用者様の希望に沿った居室となっています。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の居室掃除の際の換気や季節により換気の声掛けを行なっていますが、困難な方に対しては職員が定期的に温度・湿度の調節もこちらで行なうよう対応しています。トイレなど共有の場所については職員が常に気を配り換気・消臭の徹底をしています。		冬期間は特に暖房使用により、乾燥しやすい為、各居室に温度計・湿度計を設置していますので、個々のバスタオルを利用して乾燥防止湿度調整に配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>室内は全バリア・フリーとなっており、手すりバーも設置されています。トイレドアも3枚開きにて、車イス使用者の方でも使用しやすい工夫がなされています。</p>	<p>廊下の手すりバーを利用されるなど、個々にリハビリを気軽に行ったりもしています。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室入り口には、ご本人やご家族様より許可を頂き、ご自身の写真やお名前を貼った表札のような目印をご本人の目線に合わせて掲げて、自立生活ができるよう工夫をしています。</p>	<p>ご本人の意見・ご要望を取り入れて工夫しています。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前の階段にプランターを置き、色々な草花を植えることにより利用者の皆様やご家族様、近隣の方が親しみを持って花を愛でいただくことが出来るよう工夫しています。</p>	<p>プランターの水やりやお花の手入れは利用者様と職員が一緒に行なっています。気軽に一休み出来るようにベンチを設置しています。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日頃の会話や表情・様子などからおおむね理解していると思われる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>昼食を職員も一緒に食べることにより、会話の場を多く取り入れる工夫をしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個々に利用者様の生活のペースがあり、自分らしく暮らしています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個々の利用者様の出来ることへの参加により能力を発揮していただき、表情にも表れていると思います。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望があれば、家族対応・職員対応にて実施をしている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>月2回内科往診・体調不良時には往診可能 その他の医療との連携可能 ・歯科往診可能</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>様々な状況に応じ、ご家族様のご協力・連携を図り、柔軟な体制で支援をしています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>ご家族様と信頼関係が深まり・より良い関係を継続するよう努めています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>運営推進会議や散歩・移動販売日・定期出張訪問等により徐々にではあるが増えていきます。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議を通し、賛同のもと地域協力員を得ることが出来た。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	充実して働いていると思われる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	おおむね満足していると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	おおむね満足していると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		
		壁や居間の装飾は、入居者様と職員が一緒に作成しています。